

星の停留所 (19) おおかみ星

土山 紀子

先月は梅雨の晴れ間の南天を彩るケンタウルス星についてご紹介しましたが、今回は、このケンタウルス星と切っても切れない関係にある おおかみ星のお話です。

おおかみ星には特別明るい星がなく、しかもケンタウルス星と並んで南の空低いため、印象が薄い星ではありますが、実はそこそこの明るさの星が集まっていて、隣のケンタウルス星と合わせると意外に豪華な印象を与えます。星図では6月15日 21時30分の熊本市から見た おおかみ星を再現してみました。札幌市まで北上するとα星もμ星も地平線下へ隠れてしまうのです。全景を楽しむことができる環境に感謝しつつ、おおかみ星の星々を結んでみましょう。

おおかみ星は、隣のケンタウルス星と共にプロトマイオスの48星に数えられる起涿のすい星ですが、すくはケンタウルス星の一部と考えられていました。星図を眺めると、おおかみ星はケンタウルスが槍で突き刺している獲物として描かれていますね。

この絵の通り、当初、おおかみ星は狼ではなく単なるケンタウルスの獲物の“野獣”(Wild Animal)と見られており、紀元前3世紀頃のギリシアの詩人アラトスも、『ファイノメナ』で「ケンタウルスがす手で捕らえている野獣」と表現しています。このほかヒツパルコスもプロトマイオスも“野獣”と呼んでいましたが、『アルフォンゾ星表』(1252年)で初めて おおかみ星(Lupus)という名を与えられました。

ケンタウルスの槍の上にあったことから、おおかみ星はホステリア(犠牲)、ヴィクティマ・ケンタウリ(ケンタウルスの犠牲)、ビクティム(生け贖)のような名前でも呼ばれ、さそり星の南にある南天の星 さいだん星は、この生け贖を捧げるための場所であるともいわれます。

また、ケンタウルス星となったフォーロスの神ディオニュソスの養子の子であったことと関連してか、ケンタウルスは祝いの酒の袋を携えた姿で描かれている場合があり、おおかみ星をケンタウルスが持つ“ぶどう酒を1れる皮袋”であるとする説や、ケンタウルスは獣とワイン袋の両方を推んでいたとする説が知られています。

ギリシア神話は、そんな おおかみ星を、大神ゼウスの怒りに触れたアルカディア王リュカオンの姿としています。

リュカオンはゼウスの孫で おおぐま星になったカリストの父とされ、カリストの他に50人の息子を持っていました。リュカオンと息子たちは残忍な性格で私を苦しめていたため、ゼウスが旅人に扮してアルカディアを訪ねてみると、リュカオンと息子たちはカリストの息子 アルカスを殺して料理し、もてなします。この行いに怒ったゼウスは息子たちを雷で撃ち殺し、リュカオンを残忍で非道な性質にふさわしい狼の姿に変えて天にさらしたということです。このとき殺されたアルカスはゼウスによって甦りますが、後に熊の姿にされたカリストとの悲劇的な再会の末、こぐま星として天にあげられています。



キリスト教的には、旧約聖書の叫で、イスラエル12部族の父とされるヤコブが末の息子ベニヤミンを狼に例えた（※）ことから、おおかみ座はベニヤミンに例えられた狼、もしくはベニヤミンの身代りとして殺されたことがあったようです。

（※財団法人日本聖書協会『聖書』新共同訳より 創世記49章27節；ベニヤミンはかみ裂く狼、鞘には獲物に食らいつき、夕には奪ったものを分け合う）

このほか、アラビアでは、おおかみ座のあたりを“雌ライオン”という意味のアル・アサダーと呼んだり、ケンタウルス座の一部と共に“ヤシの枝”又は“葡萄の枝”と称していましたし、アッカド地方では“死の獣”“死神たちの星”と呼んでいました。

おおかみ座には伝統的星座がなかった星はありませんが、叫座ではα星（2.3等）を“南門”、β星（2.7等）を“騎馬隊将校”の名で呼んでいます。叫座では、このあたりの星にはもっぱら軍関係の名前がつけられていたようです。

おおかみ座の周辺は明るさのそろった星が多数集まっていることが特徴ですが、実はこのあたりの星々は空間的にもゆるやかな集団を作っており、距離や絶対光度を調べると非常に似通った星ばかりであることがわかります。この大きな集団は“さそり-ケンタウルス運動星団”と呼ばれ、天の川と平行にカノープスの方向へ進んでいる若い星たちの集まり。おおかみ座α（430光年）、β（540光年）、γ（570光年）、δ（680光年）、η（570光年）などがそのメンバーです。

おおかみ座は異例なまでに二重星が多い星座としても有名で、単に同じ方向に見えるだけのものから空間的なペアまで、そして肉眼でわかるものから望遠鏡でも分解できないものまで様々あります。双眼鏡や小望遠鏡で楽しめる星は、北から順にξ（5.3等/5.8等）・ψ（4.7/4.8）・φ（3.6/4.5）・ψ（4.7/4.8）・η（3.6/7.9）・τ（4.6/4.4）・μ（4.4/7.2）・ν（5.0/5.7）・κ（4.1/6.0）など。春から夏にかけては大気も安定していますから、南の地平線近くの星まで順番に探してみても楽しいでしょう。

